

深野康彦の 先取り経済NEWS!!

編集・発行 株式会社 アサヒ・ビジネスセンター 2020年7月15日

今月のトピックス 「家計が保有する現金・預金は1000兆円」

今回は少し毛色を変えて家計の金融資産について述べてみます。日本銀行が四半期毎に公表している「資金循環統計」によれば、2020年3月末の家計が保有する金融資産は1845兆円(速報値)。昨年末に初めて1900兆円乗せとなったものの、わずか3ヵ月で62兆円もの減少となってしまったのです。コロナショックにより世界的に株価が急落したことがその要因ですが、株価は3月中旬に底を打ち急激に戻していることから次回公表される6月末の数字では減少分の7~8割は戻しているのではないのでしょうか?ちなみに62兆円の減少といってもピンとこないかもしれませんが、2018年度の税収が概ね62兆円前後なのでかなりの資産がわずか3ヵ月の間に吹き飛んだことがわかるはず。家計が保有する金融資産の中身の詳細は割愛させていただくが、驚いたのは家計が保有する「現金・預金」の多さです。既に昨年末に家計が保有する「現金・預金」の残高は1008兆円と大台越えとなっていたのですが、今回も8兆円の減少にとどまり1000兆円をキープしているのです。どこにそんな大金があるんだ!と思われるかもしれませんが、株価が上昇しようが下落しようが、あるいは景気が良くなろうと悪くなろうと着々と残高を増やし1000兆円突破となったのです。なぜ着々と述べたかといえば「現金・預金」の残高は、対前年同期で比較すると実に11年超も増加しているのです。

政府が「貯蓄から投資(資産形成)へ」と旗を振っても日本人に根付いたカルチャーは変わらないことが、資金循環統計に如実に現れていますが、問題は1000兆円もの「現金・預金」があっても収益をほとんど生まないことです。報道がコロナ一色に染まっていた4月、実は大多数の銀行は定期預金金利を引き下げているのです。それまで0.01%あった金利はわずか0.002%と普通預金金利の0.001%と遜色がなくなりました。しかも預入期間が1ヵ月から10年まで全て0.002%。100万円を1年間預けても利息はわずか20円、普通預金が10円ですから定期預金にするのが馬鹿らしくなります。仮に1000兆円を1年定期に預け入れたとしたらその利息額は2000億円。そこから約20%の税金が徴収されるのですから、手取額は約1600億円にしかならないのです。金利が地を這っていたとしても積み上がる「現金・預金」。1割でも实体经济に流れるなど動き出せば、景気の起爆剤になる気がするのですが。コロナショックが長引くことを考えれば無理難題といえそうです。

ちなみに企業が持つ現金・預金の2020年3月末の残高は、前年比で4.5%増加して283兆円と過去最高となりました。企業も手元流動性資金を多めに確保しています。